

救急医学科に通院中または通院歴のある患者さんへ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、診療後の診療情報等を使って行います。このような研究は、文部科学省・厚生労働省・経済産業省の「人を対象とした生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。なお、この臨床研究は倫理審査委員会の審査を受け、研究方法の科学性、倫理性や患者さんの人権が守られていることが確認され、研究機関の長の許可を受けています。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

《研究課題名》 大腸憩室出血に対する腹部造影CT検査の有用性に関する後方視的検討

《研究機関名・研究責任者》 関西医科大学附属病院 高度救命救急センター 助教 岸本 真房

《研究の目的》大腸憩室出血に対して緊急大腸内視鏡を行った場合、責任憩室の同定がしばしば困難になる場合がある。当施設では大腸内視鏡前に腹部造影CT検査を行い、責任憩室の領域を推定することにより、責任憩室の同定が良好な結果となっている。そこで、本研究では、主要評価項目として腹部造影CTによる血管外漏出像の有無を、副次評価項目として責任憩室の同定率と内視鏡的止血術の治療成績を用いて分析し、腹部造影CTの有用性を明らかとすることを目的とする。

《研究期間》承認日から2022年12月末日

《研究の方法》

●対象となる患者さん

2010年7月1日から2021年12月末日の間に当院で診断した大腸憩室出血の方

●研究に用いる試料・情報の種類

情報：臨床所見（年齢、性別、既往歴、服薬歴、バイタルサイン、血液検査所見）、腹部造影CT検査関連（血便発症から検査までの時間、血管外漏出像の有無手術関連）、入院後経過（入院日数、治療成績）

《この研究に関する情報の提供について》

この研究に関して、研究計画書や研究に関する資料をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

《この研究での検体・診療情報等の取扱い》

お預かりした診療情報等には匿名化処理を行い、患者さんの氏名や住所などが特定できないように安全管理措置を講じたうえで取扱っています。

《本研究の資金源・利益相反について》

この研究は外部の企業等からの資金の提供は受けておらず、研究者が企業等から独立して計画して実施しているものです。したがって、研究結果および解析等に影響を及ぼすことは無く、患者さんの不利益につながることはありません。また、この研究の研究責任者および研究者は「関西医科大学利益相反マネジメントに関する規程」に従って、利益相反マネジメント委員会に必要事項を申請し、その審査と承認を得ています。

\*上記の研究に利用することをご了解いただけない場合は以下にご連絡ください。

《問い合わせ先》

研究責任者 関西医科大学附属病院 高度救命救急センター 助教 岸本 真房

〒573-1191 大阪府枚方市新町2-3-1

電話：072-804-0101（代表）（PHS：57733）